

2004年6月15日

会社名 株式会社 高島屋
 代表者名 代表取締役社長 鈴木 弘治
 コード番号 8233

2004年5月度 高島屋営業報告

* 本年4月1日をもって、岡山店、岐阜店、高崎店を分社化いたしました。これら3店に加え、昨年9月に分社化した米子店の売上を含む、全店18店計前年対比を**実質**数値として表記しております。

百貨店事業概況 本年 -8.1 **実質** 0.2 (前年比%)

5月度は、関東地区では東京店、玉川店、新宿店、高崎高島屋など、関西地区では一部改装が始まった大阪店など、リニューアル後の経過が好調な店舗が全体の水準を押し上げ、18店計実質前年比+0.2%と前年実績を上回った。

店舗別概況

関西	店舗別						関西計	
	大阪店	京都店	泉北店	岡山高島屋	岐阜高島屋	米子高島屋	本年	実質
売上	2.9	0.0	-1.4	-8.5	-6.9	-10.4	-16.2	-0.2
入店客数	2.9	0.7	-2.6	-0.6	1.9	-1.1		

* 大阪店には和歌山店・堺店、京都店には洛西店の売上を含む

関東	店舗別								関東計	
	東京店	横浜店	新宿店	玉川店	立川店	大宮店	柏店	高崎高島屋	本年	実質
売上	6.7	-4.3	2.6	9.7	-2.8	-13.6	-1.4	3.4	-2.8	0.5
入店客数	20.4	-0.9	3.7	10.5	2.7	-5.6	2.3	5.3		

* 横浜店には港南台店の売上を含む

<店舗別> リニューアルオープン後1ヵ月を経過した東京店では、強化した特選70アや食堂が前年比約+40%増でそれぞれ推移、紳士服(前年比+14.0%)、婦人雑貨(同+9.9%)、食料品(同+20.6%)も引き続き好調を維持している。その他、玉川店でも特選衣料雑貨(同+28.6%)、食料品(同+25.4%)、大阪店でも新ブランドの導入効果により、婦人雑貨(同+12.2%)、食堂(同+6.1%)などが伸びを見せた。一方、一部郊外店では前年開催の大型催の時期変更等の影響があり前年を下回った。

広域事業概況

法人	通販	広域計
18.9	-18.4	4.8

<広域事業> 法人事業は、新規物件の受注増や、大型物件の計上月変更により前年を上回ったが、通信販売事業は、カタログ初夏号の動きが鈍く、リビング用品等の低迷により前年を下回った。

総計

本年	実質
-7.4	0.5

商品別概況 (百貨店協会商品区分)

	本年	実質		本年	実質		本年	実質
紳士服・用品	-4.8	3.0	身のまわり品	-2.4	4.0	食料品	-5.2	2.5
婦人服・用品	-11.6	-2.3				食堂・喫茶	1.2	8.6
子供服・用品	-13.2	-4.4	家具	-20.0	-13.3	雑貨	-4.5	3.2
その他衣料品	-11.2	0.4	家電	-17.2	-9.7	サービス	-0.6	2.5
衣料品計	-10.2	-1.1	その他	-14.1	-7.9	その他	-11.6	-4.9
			家庭用品計	-15.9	-9.5	合計	-7.4	0.5

<店頭商品別> 商品別では、引き続き改装効果により特選衣料雑貨(前年比+8.3%)、紳士服(同+2.2%)、婦人雑貨(同+1.0%)、食料品(同+2.7%)が好調に推移、また、早期展開によりトレンドを着実に発信した浴衣(同+31.4%)の滑り出しが好調の呉服(同+1.3%)や、家庭外商の動きが良かった美術品(同+18.8%)も前年を上回った。一方、婦人服(同-3.3%)はボトムスなどの動きも弱く苦戦、宝飾品(同-3.4%)、リビング(同-6.1%)も前年を下回った。

以上